**千々石ミゲル像**

千々石ミゲルとしてよく知られる千々石清左衛門紀員（ちぢわせいざえもんのりかず、1569–没年不詳)は、戦国時代（1567–1615）の武将千々石大和守直員（やまとのかみなおかず）の養子でした。千々石ミゲルは、原マルティノ、伊東マンショ、中浦ジュリアンとともに、ローマに渡って教皇に謁見するために選ばれた天正遣欧使節と呼ばれる4人の少年の1人でした。

少年たちは1582年に日本を出発し、1585年に2人の教皇（グレゴリウス13世とシクストゥス5世）に謁見した後、ローマに数年間滞在し、1590年に帰国しました。彼らが日本を離れていた間に、豊臣秀吉によるキリスト教神父の追放令が出され、国内ではキリスト教への敵対的な雰囲気が強まっていました。千々石は後年棄教したと考えられていましたが、近年ミゲルの墓からロザリオが発見され、この推測が誤りである疑いが浮上しました。

この像の千々石ミゲルはヨーロッパ風の装いに身を包んでいます。天正遣欧使節の少年たちは、ヴェネツィアの元首をはじめとする旅先で謁見した要人たちから様々なヨーロッパの衣装を贈られました。